

■**額綱彌三** 特高課長として、三・一五、四・一六事件に活躍。敗戦直後、アメリカや(赤旗)に、その詳細な実態を語った。

こうけつやぞう

郡司千島探検1893＝ 岐阜県恵那郡蛭川村で、報徳社幹事で郡会議員額綱秋三郎の長男に生まれる。のち、弟が3人できる。

日清戦争始・1894＝1歳：

額綱姓は、桓武天皇時に唐から伝来した染物に由来し、美濃地方に多く、可児郡には額綱神社もある。済美図書館があるくらい、教育熱心な農村の蛭川村で、報徳運動を進める名望家で、三宅雪嶺の(日本及び日本人)を愛読、議論好きであった父から、大きな影響を受けて育つ。

蛭川尋常科小学校から、

教科書疑獄・1902＝9歳：

高等科に進み、

日露戦争終・1905＝12歳：

卒業。岐阜県立東濃中学校に入学、

満鉄発足・1906＝13歳：父が、蛭川村長になり、計画造林に尽力。

アライ創刊・1908＝15歳：

この年、二宮尊徳を敬慕する蛭川村で、村の道徳が失われていくことを危惧する父ら指導者が、農商務省嘱託職員井口丑二とともに、大日本神国教を始め、現在でも、旧蛭川村民の八割が信者であるほど、浸透。

韓国併合・1910＝17歳：

警視庁の警視総監官房高等課から特別高等課が分離されたのが、いわゆる“特高”の始まり。

大逆事件判決1911＝18歳：

第一高等学校を受験するも失敗、

明治天皇没・1912＝19歳：

大阪府警察部にも、“特高”ができた。再度受験して合格。

21ヶ条要求・1915＝22歳：

なぜか官僚臭の少ない京都帝国大学法学部に進み、大正デモクラシーの影響も受けてか、

民本主義・1916＝23歳：

城ノブがこの年、設立した神戸婦人同情会とも、接点ができるのを見ると、社会矛盾にも関心があり、のちの日記から、大変な読書家で、政界についての読み解きにも熱心になって行くことが分かる。

大暴落・1920＝27歳：

辻久子と結婚後、卒業。内務省に入省、愛知県属となる。高等文官試験行政科に合格、出世の道が開け、

原敬首相暗殺1921＝28歳：

北海道庁警視・警察部保安課長、

関東大震災・1923＝30歳：

北海道石狩支庁長、北海道空知支庁長、

護憲三派圧勝1924＝31歳：

北海道庁事務官、

治安維持法・1925＝32歳：

“特高”活動の支えになる治安維持法が制定された年、兵庫県警察部外事課長、

円本時代始・1926＝33歳：

長男康夫、妻久子があいついで病死し慟哭、この頃から、“弥三日記”が続く。

金融恐慌・1927＝34歳：

警視庁警視・総監官房特別高等課長になる。兼務した外事課長として、上海行きの話があるも消えたことに憤慨。*いわゆる“特高”課長として、

共産党事件・1928＝35歳：

“特高”拡充に拍車がかかることになった日本共産党弾圧の三・一五事件、

世界恐慌・1929＝36歳：

秋田県人の娘シマと再婚。四・一六事件を指揮。辞任後は、茨城県警察部長を皮切りに、久子との間の次男から五男が残され、シマとの間には、六、七男、長女、次女が誕生。

満州事変・1931＝38歳：

静岡県警察部長、三重県警察部長、

五一五事件・1932＝39歳：

特別高等課が特別高等警察部に昇格。外務省アジア局第二課事務官から、かねて希望の上海領事に就任、

帝人疑獄事件1934＝41歳：

関東局書記官を兼務。三・一五事件、四・一六事件の功労として、勲五等旭日双光章。

芥川直木賞始1935＝42歳：

宮城県警察部長、

二二六事件・1936＝43歳：

父が隠居し、家督を相続。兵庫県警察部長、

日中戦争始・1937＝44歳：

従五位から正五位に叙位。静岡、三重県と、諸県の警察部長を歴任後、

健保+総動員1938＝45歳：

*大分県知事となり、内務官僚の到達点に至るが、胃潰瘍が原因で吐血し、長期入院するなか、

第二次大戦始1939＝46歳：

父が死去。

その後も、胃潰瘍の後遺症に悩まされ続け、

日米開戦・1941＝48歳：

文部省社会教育局長として、中央に復帰すると、諸雑誌に反共・国体思想の文を寄稿、

・1942＝49歳：

普通学務局長、国民教育局長を最後に、

創価学会検挙1943＝50歳：

*退官。

年金+総武装1944＝51歳：

{日本油化}の顧問、{日本硫鉄}や{耐火煉瓦}社長になり、戦局を見つめるうち、

敗戦・1945＝52歳：

敗戦。GHQの指令により、“特高”は解体に追い込まれ、課員だった連中は解職扱いで、

新憲法公布・1946＝53歳：

ほとんどが罪を問われず、組織存続を図る内務省は、警保局内に公安課を設置、現在の道府県警全てに置かれる。“特高”の代表選手の一員として公職追放となり、

新憲法施行・1947＝54歳：

この間、東京赤堤の六所神社の神職になって生活しながら、アメリカ合衆国陸軍情報部(CIC)の依頼で、特高警察に関する詳細な調査報告書を作成し、日本共産党機関紙(赤旗)の取材に応じ、十数回にわたり自身の特高警察時代について証言するとともに、“弥三日記”も差し出している。

独立回復・1951＝59歳：

内務省後輩の、田中栄一警視総監、さらに同郷恵那出身の古屋亨刑事部長から情報を得ながら、

神職を離れる手続きもして、公職追放解除になると、

いくつかの会社の幹部に迎えられていたが、三男からの選挙に打って出るよう勧められた上、東京大空襲で

死去した、戦前の代議士古屋慶隆の後継がないことから、地盤も譲られたところに、

55年体制始・1955＝62歳：

{文藝春秋}臨時増刊号に「赤色戦線大検挙」寄稿。保守合同で、自由民主党ができたことから、衆議院議員

選挙に、岐阜2区から出馬し初当選、以後4期連続当選。

国連加盟・1956＝63歳：

自由民主党文教部会長を務め、紀元節の復活を図るべく、「建国記念の日」制定に執念を燃やし、

安保闘争・1960＝67歳：

翌年にかけて、第2次池田内閣の文部政務次官、

TV宇宙中継始1963＝70歳：

改造で、大蔵政務次官、第3次池田内閣で再任。

東京オリンピック1964＝71歳：

改造で、科学技術政務次官、

大学紛争始・1965＝72歳：

勲二等瑞宝章。

いざなぎ景気1966＝73歳：

念願の「建国記念日」制定が実現すると、

美濃部都知事1967＝74歳：

地盤を旧内務官僚で岩手県特高課長の経験もある古屋亨に返して、*政界を引退。

新東京国際空港公団監事となるが、

石油ショック1973＝80歳：

角栄金脈辞任1974＝81歳：

辞任、

クアラルンプール事件1975＝82歳：

成田衝突・1978＝85歳：

肺炎のため、同愛記念病院で、奇しくも3月15日に、没した。

額綱厚「戦争と弾圧 三・一五事件と特高課長・額綱弥三の軌跡」、